
Lonely Solitude

壇 敬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

L o n e l y S o l i t u d e

【Nコード】

N 0 2 2 9 N

【作者名】

壇 敬

【あらすじ】

「遠い星の探査に飛び立った」と思い込んでいる、宇宙船に乗り込んだ一人の男。

しかし、彼は地球と月の橢円軌道を周回していただけだった。

それは、宇宙軍の壮大で、莫大で、途方もない人体実験だった。

彼の運命と宇宙軍の対応と彼が生み出した膨大なデータは、果たして…。

（前書き）

「祭り」に向って新作を模索中。

それより「参加表明した方がいいのか？」を思案中。

「前哨」ばっかじゃダメだよなあ。

朝、らしい時間に起きて顔を洗う。

ダイニングテーブルの椅子に座り、朝食を食べる。

朝食は、タイマーセットされたフードメーカーが自動的にテーブルへ給仕してくれる。

食事のバリエーションは豊富だ。今まで同じメニューが出たことがない。

ただ、ここで生活する時間があまりにも長いので、例え繰り返されていても、もう忘れているだけなのかもしれない。

最後にコーヒーを飲み干してから仕事に就く。仕事場への移動は、ほんの数歩。居住区画からオペレーションルームへの移動だけだ。

仕事場でまず何をするかというと、スペースシップの点検である。自分の乗っている船に異常があつては敵わない。それだけはキッチンとチェックする。今日も異常が無いようだ。

次にすることは、就寝中のログを見ることだ。このスペースシップは一人乗りだ。就寝時間中は、ゼネラルマネージメントコントロールが全てを統括して管理制御する。もちろん、起きている時もそうなのだが。

カーソルを動かしてログを読む。今日も異常無し。そして、特筆すべき現象も無しだ。

ひと通り、ルーチンワークを終えると、午前中のトレーニングタイムとなる。

宇宙空間では、肉体の衰えや変化が激しい。それを補うためにもトレーニングは欠かせない。

二時間ほど、ランニングマシンの上で走る。しこたま汗をかくが、水分は重要な資源なのでシャワールームで流した後はエアコンが回収する。

シャワールームから出るとランチだ。軽いメニューがほとんどだ。

スパゲッティやハンバーガーの類だ。昼食のメニューだけは繰り返しが多いかもしれない。

その後、シエスタ、つまりお昼寝をする。元来はそんな習慣を持つてなかったが、この船に乗ってから身に付いた。これはこれで慣れるといいものだ。

午後三時らしい時間から再び仕事だ。また、船体とログのチェックである。

それが終わると、今度はウエイトを使ったトレーニングだ。二時間ほど汗を流して、シャワーを浴びる。

そしてディナーだ。

大抵はフルコースで、フランス料理、中華料理、日本料理、ロシア料理にインド料理と、全く飽きない。

そして、必ずアルコールが1杯付いてくる。ワイン、ビール、ウ
 オッカ、ブランデー、など。毎日が楽しみなのだ。

そして、**娯楽を楽しむこともなく、程なく眠りに着くのだ。**

遠い星を目指して発進した宇宙船だ。そのことは自分自身、十分に承知していた。

このスペースシップに乗るためには、多くの試験と長い時間の訓練を勝ち抜いたのだ。

だが、目的の星は明かされていない。全てはゼネラルマネージメントコントローラが把握していて、時が至ると告げてくれるはずなのだ。

だが、異常に長過ぎるように最近は思えてきた。こんな生活が何年、続いているのだろうか？

確かに適性検査で、孤独に対する適性がずば抜けてダントツだったのは教官から聞いた。

だが、この長すぎる孤独感は、適性検査の限度を過ぎているように感じていた。

この先あと何年、こんな生活が続くのだろうか？

ああ、誰かと話したい…。

ヒトの姿が見たい…。

ああ、誰か…。

「実験船『ソリチュード』より入電、生命反応が停止しました」

地球の管制室で、オペレータの声がこだました。管制室の職員は全員起立して、黙祷を捧げた。

「長かったな」

「ええ、そうですね」

指令官と担当する実験主任が言葉を交わした。

「彼は、偉大なデータを我々に提供してくれた」

「それも、非常に貴重なデータをな」

そう告げた司令官に、実験主任が頷いた。

「ええ、彼の名は宇宙史に残るでしょう」

司令官はフツと笑った。

「彼の名前がいつ歴史に現れるかは分からないが、な」

彼の乗った宇宙船『ソリチュード』は、地球と月とを周回する超楕円軌道を四十八年間、飛行し続けたのだ。

食事だけは外部からの中継で補給を受けていたが、それ以外の空気や水は船内の循環装置よって賄っていた。四十八年間、宇宙船の装置は一度も壊れずに機能し、彼は老衰の為に死亡したのだった。

これは、壮大で莫大な人体実験であった。実験を統括する人員は、三世代に渡って引き継がれてきた。

途中で止めることも出来たであろう。何しろ、維持するだけでも膨大な経費が掛かる。だが、軍は秘密裏に成し遂げたのだった。しかし、これを公表することは出来なかった。何しろ、ヒトを使った実験なのだから。

享年八十歳。

彼の人生の全記録は、軍の資料保管センターの第1級極秘ファイルの中に納められた。

二度と誰も垣間見ることも無いところへ。

（後書き）

よろしければ、感想をお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0229n/>

Lonely Solitude

2010年10月20日11時18分発行